

わかやま

No.92

和歌山県精神保健福祉センター 2022年8月



「消費者トラブルの未然防止・拡大防止に向けて」

和歌山県消費生活センター 所長 嶋岡 真志

和歌山県消費生活センターには、毎年5,000件を超える商品やサービスについての苦情・相談が寄せられており、消費生活に関する専門知識を持った消費生活相談員が解決のお手伝いをしています。

令和3年度は5,116件の相談が寄せられ、相談の内容を見ますと、化粧品・健康食品の定期購入トラブル等に関する相談がとて多く寄せられました。これは、「インターネットやSNSで「初回無料」や「お試し500円」と記載されている広告を見て、一回だけのつもりで商品を注文しても、数回購入しなければならない『定期購入』が条件になっており、総額として注文時に想定した以上の金額を支払うことになった。」といったものです。

その他にも、若者を中心に「間違いを装ったメールやマッチングアプリで知り合った相手とのやり取りがきっかけで、出会い系サイトに誘導され、連絡先の交換のために必要なと称して次々と金銭を要求された」といった出会い系サイトなどに関する相談や「SNSやインターネットで見つけた内職や副業などのもうけ話で、トラブルに遭ってしまった」といった相談が増加しています。このような中、民法改正により、今年の4月1日から成

年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、18歳になれば親の同意を得ることなく一人で契約ができるようになったため、契約に関する知識や社会経験が少なく、未成年者契約の取り消しができなくなって間もない若者をターゲットにした悪質な業者による消費者トラブル増加が懸念されるため注意が必要です。

寄せられた相談の中には、障害のある方からの相談も多数あり、障害がある方は「被害にあっても抱え込んでしまい周囲に相談しない」「だまされていることに気づきにくい」等の傾向があるため、被害が拡大する恐れがあります。

このような消費者トラブルを未然防止、拡大防止するためには、ご本人に情報提供を十分に行い問題意識を高めてもらうことや、ご本人がトラブルで困っていないかまわりの方々が見守り、困っている様子に気づいた際には消費生活センター等につないでいただくことがとても大切であり、関係機関、関係団体の皆様のご協力が不可欠です。今後も皆様からの御支援・御協力をお願い申し上げます。

◆◆「もくじ」は、2ページ下部にあります◆◆

シリーズ センター長だより 51

和歌山県精神保健福祉センター

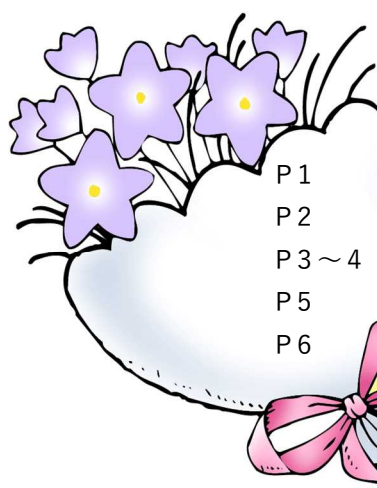
所長 小野 善郎



「行動制限のない夏」

この夏は新型コロナウイルス感染症の発生以来3年ぶりに「行動制限のない夏」ということで、旅行や帰省などで久しぶりに遠出をした人も多かったかと思います。私はふと思い立って北海道に行って「乗り鉄」をしてきました。鉄道マニアというわけではありませんが、そんなに遠くない将来、廃線になりそうな路線に今のうちに乗っておきたいなと思って、学生時代（もう40年前ですが）に旅した道東と道北を回ってきました。「乗り鉄」とは別に「端っこマニア」と呼ばれる人もいますが、北海道には日本最東端（東根室駅）と最北端（稚内駅）の駅があるので、一気に2つの端を制覇できてお得な感じもします。

この夏、JR北海道がお得な切符を売り出したこともあって、ふだんはガラガラのローカル鉄道も満員御礼の状態、同じような思いのシニア層が多いことを実感しました。それにしても40年前であれば北海道内はまさに網の目のように国鉄の路線があったものですが、今ではずいぶん寂しい思いがあります。でも、コロナで生活のペースが変わって戸惑う初老の「元青年」にとって、車窓の風景を眺めて過ごす時間はとても心地よい癒やしになりました。まだしばらくはコロナ前の生活には戻らないかもしれませんが、あらためて今の自分にできる癒やしを見つけることが大切かなと思いました。



もくじ

- P1 「消費者トラブルの未然防止・拡大防止に向けて」
- P2 「シリーズセンター長だより 51」
- P3～4 県精神保健福祉センターからのご報告／ご案内／お知らせ
- P5 9月10日(土)世界自殺予防デー、9月10日(土)から16日(金)自殺予防週間
- P6 はーとふるネットワーク

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号

県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

TEL (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

メンタルヘルスニュース

開催報告



- 【日 時】令和4年6月21日(火) 13:30~15:30
【場 所】県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 1階大ホール
【内 容】『ドキュメンタリー映画「夜明け前」上映と
今井監督からのライブ配信』

【精神保健福祉協会こころの集い講演会】

キュメンタリー映画は、呉秀三先生と自宅監禁をテーマにしたもので、上演後にライブ配信をしました。監督には、撮影を引き受けた経緯や撮影後に気づいたこと、御自身の家族のこと、第二段を計画していることなどをお話いただきました。参加者から「人としての尊厳について考えさせられた。」「日本の精神保健・精神福祉の歴史等を知り、大変勉強になりました。」「監督さんの話を直接聞けてよかった。」などの感想がありました。参加者は56名でした。

【依存症対策県民向け講演会】



- 【日 時】令和4年7月3日(日) 13:30~15:30
【場 所】和歌山県勤労福祉会館プラザホープ 多目的室
【講 演】身近に潜む依存症「思っていることが話せない人たち」
【講 師】信貴山病院ハートランドしぎさん 臨床教育センター長 長 徹二 先生
【取組紹介】県精神保健福祉センター
長先生より、依存症に陥りやすい人は何らかの生きづらさを抱えていることや、関わり方として、いいところをしっかりと認め、自信をつけることが大事だとお話いただきました。参加者から「依存症に対するイメージが変わった」「待つ姿勢や見守ることも大事だとわかった」との感想が聞かれました。
参加者は48名でした。

【ひきこもり支援従事者研修】

- 【日 時】令和4年7月11日(月) 13:30~15:30
【場 所】県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 2階会議室
【講 演】ひきこもり支援の現場から
～訪問支援とネットワーク支援のポイント～
【講 師】ひなたの森・あずまプラッツ施設長
南 芳樹 先生

南先生から、ひきこもり・不登校の基本的な理解や、居場所における支援の重要性、地域支援者がつながって支

援を行う必要性などについて教えていただきました。29名が参加され、みなさん熱心に講演を聞かれていました。



【思春期セミナー】

- 【日 時】令和4年8月2日(火) 13:30~15:20
【場 所】県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 2階会議室
【第1部 講演】
「大学生の時期のこころの健康を人生のなかに位置づける」
【講 師】精神科医 岩谷 潤 先生
【第2部 トークセッション】
「今どきの大学生のメンタルヘルス」
精神科医 岩谷 潤 先生
ひきこもりとピアサポーターの経験者
大西 敦士 氏
聞き手 精神保健福祉センター所長 小野 善郎

岩谷先生には、大学生が経験するこころのトラブル、思春期の自分との対話、ライフサイクルの課題という視点について御講演いただきました。大西氏には、御自身の体験から大学生時代の苦悩と人や物との出会い、自分との対話などについてお話いただきました。トークセッションでは、同じ人は一人もいない、皆違っていいというメッセージをいただきました。参加者からは、「大学生は思っている以上に繊細なものだと改めて理解が深まった。」「大西氏の『後から気づいてもいいじゃないか』本当ですね。」「相談の受け手の想像力が支援の限界と感じた。良し悪しの判断をせずに理解しようとし受け入れることが必要。」というお声をいただきました。参加者は22名でした。

開催案内



アルコール健康障害対策講演会 (和歌山)

○日時 令和4年10月23日(日)
14:00~15:50

○場所 和歌山県民文化会館
5階 大会議室(和歌山市
小松原通1丁目1番地)

○内容

講演 『こころと体にやさしい
お酒とのつきあい方』

講師：三軒茶屋神経科・診療内科
クリニック院長 重盛憲司先生

取組紹介 精神保健福祉センター

○対象 どなたでもご参加いただけ
ます

○定員 40名・無料
(事前申込制・先着順)

※センターへ電話もしくはFAXに
て申込みください。

○その他 手話通訳・要約筆記の
申込みは、9月21日(水)まで



アルコール健康障害対策講演会 (田辺)

○日時 令和4年10月29日(土)
13:30~16:00

○場所 田辺スポーツパーク
多目的ホール
(田辺市上の山1丁目23)

○内容

講演

『知って得するお酒の話～家族みんな
の幸せと健康のために～』

講師：医療法人和気会新生会病院
院長 和気浩三先生

体験談

NPO法人和歌山県断酒連合会
アルコールリクス・アノニマス(AA)

取組紹介

県立こころの医療センター職員

○対象 どなたでもご参加いただけ
ます

○定員 50名・無料
(事前申込制・先着順)

※センターへ電話もしくはFAXに
て申込みください。

○その他 手話通訳・要約筆記の
申込みは、9月28日(水)まで

薬物関連問題にかかわる ワークショップ研修会

○日時 令和4年11月21日(月)
13:30~16:30

○場所 勤労福祉会館
プラザホープ2階多目的室
(和歌山市北出島1丁目5番47号)

○内容

講演

「依存症の問題の本質と解決」

講師：和歌山ダルク
代表理事 池谷 太輔氏

体験談 和歌山ダルク

個人ワーク

○対象者

保健福祉・医療・行政等の援助職
従事者、依存症・薬物関連問題につ
いて、相談や支援に応じる方、予防
教育や啓発に携わる方

○定員 先着40名・無料
※センターへ電話もしくはFAXに
て申込みください。



受講・参加にあたってのご注意

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、講演会等を中止する場合があります。当日、体温測定や問診票等で体調チェックを行い、体調不良が認められる場合は受講をお断りする場合があります。

お知らせ

和歌山市中学校教頭会から当センターに教頭会研修会「保健安全教育」の依頼があり県教育委員会の先生とともに行ってきました。その後、sosの出し方に関する教育の実施について前向きにお考えいただいています。児童生徒のsosの出し方に関する教育は、国の自殺対策の方針として、基本施策の1つに入れるほど重要な施策で、全自治体において取り組むべき事項となっています。県自殺対策計画でも推進すべき重要施策としてあげられています。

【日時】 令和4年7月14日(火) 13:30~5:00

【場所】 和歌山信愛中学校3階研修室

【講演】 「自殺未遂をした生徒に対するケアについて」

【講師】 和歌山県教育庁 学校教育局

教育支援課 指導主事 中西雅重先生

和歌山県精神保健福祉センター職員

【参加者】 和歌山市内の中学校教頭先生 15名



和歌山県精神保健福祉センターのホームページにR4.8.1現在の生きる支援相談窓口一覧を掲載しました。連携する130余りの相談窓口があります。

生きる支援相談窓口一覧

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/>

050301/d00154809.html



和歌山県精神保健福祉センターだより「わかやま」への掲載記事募集！！

日頃より、精神保健福祉の推進にご協力いただいている施設・団体の皆さまの活動紹介やPRなど、当センターだよりに掲載させていただく記事を募集いたします。イベントや新しい取り組み等、広く周知させていただきます。

*センターだより発行時期：年4回(5月・8月・11月・2月それぞれの下旬)

*募集期間：随時(連絡先：和歌山県精神保健福祉センター)

*掲載時期や掲載枠については限りがありますので、まずはご相談ください。

9月10日(土)世界自殺予防デー、9月10日(土)から16日(金)自殺予防週間

世界自殺予防デーは、2003年に開催された世界自殺防止会議で世界的に自殺対策に取り組む責任があると決意表明(宣言)された日です。日本では自殺対策基本法に基づき、毎年9月10日から16日を「自殺予防週間」、毎年3月を「自殺対策強化月間」と定めて、国、地方公共団体、関係団体等が連携して「いのち支える自殺対策」という理念を前面に打ち出した啓発活動を推進しています。啓発活動によって悩みを抱えた人が必要な支援が受けられるよう支援策を重点的に実施する。また、自殺予防週間や自殺対策強化月間について、国民の約3人に2人以上が聞いたことがあるようにすることを目指しています。(自殺総合対策大綱より)

全国の自殺者数は、平成22年以降減少を続けていましたが、令和2年には新型コロナウイルス感染症拡大の影響等で自殺の要因となり得る様々な問題が悪化したなどにより増加しており、特に小中高生の自殺者数は過去最多となりました。

令和3年の自殺者数は20,282人(人口10万人対16.5)。男女別にみると、男性は12年連続の減少、女性は2年連続の増加、小中高生は過去2番目に多くなりました。また、和歌山県では186人(人口10万人対20.5)でした。

(厚生労働省人口動態統計(概数)より)

自殺の多くは多様で複雑、複合的な原因及び背景をもっており、様々な要因、複雑な問題が関係し、心理的に追い込まれた末の死であるといわれています。そして誰もが自殺に追い込まれる危機に遭遇する可能性があります。危機に至った人の心情や背景について正しく理解を深めること、危機に至った場合には誰かに援助を求めることが適当であるということが、地域全体の共通認識となるよう啓発を進めていきましょう。



こころサポーター

～誰もが安心して自分らしく暮らしていける社会を目指して～

メンタルヘルス・ファーストエイド(こころの応急処置)に基づいて、身近な人のこころの不調に気づき、耳を傾け、“てあて”をする人のことです。小学生から大人までが担い手となります。国は、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムを目指して、身近な人たちにこころの病気への正しい知識と理解をもつていただくために、こころサポーターを2033年末までに100万人養成することを目標としています。

令和4年度に和歌山県でも国のモデル事業として4圏域で実施する予定です。

<こころの不調に気づく>

家族や仲間の変化に気づこう。

例えばミスや物忘れが多い、急に痩せた、太った、遅刻や休みが増えた、怒りっぽくなった、お酒の量が増えた SNS の投稿が減った、顔色が悪い、トラブルが増えたなど。

<声をかける>

気にかけている気持ちを伝えよう。

例えば家庭で、今日あったこと、感じたことを気軽に話す。自分自身のこころをケアする時間を持つ。職場で、気になる人に一言かけてみる。地域で、優しい目を向ける。困っている人に気づく。

<話を聴く>

判断せずに傾聴しよう。

ポイント話をしている人や状況に関する判断をしないで耳を傾け、理解しようとする。判断されずに自由に話せると思えるようにする。

自殺を考えているかもしれないと思ったら、その人に直接、尋ねましょう。

<サポート手段を伝える、勧める>

尊敬と尊厳をもって接しましょう。

情緒的にサポートし、理解しましょう。

専門家の支援、自分でできる対処法、その他のサポートについて伝えましょう。

支援を望まなかったら、支援を求める方法について相談しましょう。



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。

はーとふるネットワーク

今回は、株式会社竹千代 就労継続支援 B 型事業所「キミト☆ミライ」社長の谷正義（たにまさよし）さんです。

-就労継続支援 B 型事業所「キミト☆ミライ」は、どのような事業所ですか？

障がいのある方の自信を付けられる場所。「君と未来」を一緒に創っていく場所。そんなアートの聖地として(株)竹千代が 2022 年今年 4 月にオープンした竹や木の灯りの物作りをしている就労継続支援 B 型事業所です。後継者の少ない農業分野地域へも目を向け、1 年を通して収穫作業等の仕事に関わることができる農福連携事業の成功モデルを目指しています。就労支援と生活支援を行い一人ひとりの未来や将来について一緒に考え、その人らしく生きていけるサポートをさせていただいております。雇用契約を結ばずに、働くスペースを提供する場所、居場所です。作業工賃を得ながら、自分のペースで働くことができます。次のステップアップを目指して下さい。作業をすることは難しいけれど、何かにチャレンジしたい気持ちをもっている方！一歩を踏み出すために勇気をもって通所したいという方も、お気軽にご連絡・ご相談ください。

-谷正義様の自己紹介と事業所をはじめられたきっかけや想いを教えてください

現在、38 歳です。和歌山県海南市にある「株式会社竹千代」の代表を務めております。当社は 2020 年 9 月 15 日に設立した会社で、主に竹灯籠、竹材・木材の販売や、「竹あかり」の企画運営と演出を行っています。私は 9 歳のときからずっと、ヤングケアラーとして両親の介護しながら 19 歳の時から介護関係の仕事が続けています。2013 年 9 月 1 日に紀の川市内に設立した、私の弟が代表を務める会社で高齢者向けの通所介護事業所の管理と訪問介護事業や老人ホーム事業に携わるとともに、障がいの者の支援計画を作り、役所と事業者を繋ぐような仕事も行っていました。



谷正義さんとお母さま

現在は就労継続支援 B 型事業所「キミト☆ミライ」の管理者兼サービス管理責任者の仕事をしながら、株式会社竹千代の代表として、地域の観光資源を何か活用できないかと考えているところです。

-今後の構想について教えてください。

竹千代グループでは、関わる全てのサービスやモノを通じて世界が直面している課題の解決を目指します。「持続可能な開発目標(SDGs)」の普及活動、目標達成の取り組みに力を入れます。扱うテーマは多岐にわたります。そして、社会の表面から埋没しがちになっている「さまざまな困難を抱えた生きとし生けるもの」全ての存在に目を向け、苦しみを取り除くことが出来る企業とヒトであること。また、お客さま、地域の皆さま、応援サポートしていただいている皆さま、竹千代グループ全従業員に感動と明るい未来をお届けすることにより、たがいを尊重し、あたたかく、やさしく、はげましあい、たたえあえるコミュニケーション社会の発展、貢献に努めます。

-次回のご紹介をお願いします。

基幹相談支援センターにしむろ

龍田俊夫 様です。